

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

## 1. 参加者

・千賀、入江

## 2. 山行スタイル

夏山バリエーション

## 3. 目的

岩稜帯登攀・マルチピッチ・コンテトレーニング

## 4. 山域／ルート

北アルプス 剣岳 長次郎谷・ハツ峰（中止）・北方稜線

## 5. 交通手段

自家用車・立山黒部アルペンルート（室堂）

## 6. 行動記録

〈前夜泊 入山日 2023年7月15日 下山日 2023年7月17日〉  
7月14日 神戸 22:30 発  
7月15日 立山駅 5:20 着 7:20 発 → 室堂駅 9:30 発 → 雷鳥沢 10:30 → 別山乗越 11:45 →  
剣沢キャンプ場 12:30 着 13:15 発 → 長次郎谷出合 14:55 着 15:10 発 → 熊の岩 18:10 着  
テント泊  
7月16日 熊の岩 9:15 発 → 長次郎谷左股経由 → 長次郎のコル 10:10 着 10:20 発 → 剣岳本峰 11:30 着  
12:25 発 → 剣山荘 15:30 着 16:05 発 → 剣沢キャンプ場 16:50 着 テント泊  
7月17日 剣沢キャンプ場 5:40 発 → 別山乗越 6:40 着 6:50 発 → 雷鳥沢 7:50 着 8:20 発 →  
室堂駅 9:20 着 → 立山駅 → 神戸着

## 7. 山行中の問題点、事故に繋がる要因

a) 予定のルート、日程で行動できたか？

雨天につき、ハツ峰Cフェース及びハツ峰上半縦走を中止し長次郎谷左股から長次郎のコルへ抜ける。

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

なし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

天候判断について検討。

## 8. その他、ルートに関する情報、気づいた事など記す

雪渓は8月下旬の様相。長次郎谷出合の雪渓は一部崩落。長次郎谷の雪は繋がっていない。

長次郎谷左股は熊の岩からならアクセス可能。

## 9. 感想

（エピローグ）

本チャンに向けての最後のトレは、おすすめしてもらったハツ峰へ。

剣のバリエーション自体、実は初めて。会に入会した年、バリエーションルートやアルパインルートの存在すら知らなかつたけど、翌年に剣バリに行く計画があつたので、エントリーしトレーニングに参加。でも諸事情により行けなかつた。それ以来、行くチャンスは巡つてこなかつた、7年越しの憧れの剣バリだ。

2人ともハツ峰は初めて。今年の長次郎谷は早くに雪が解けて状態が悪いとの前情報、割れた雪渓を未明の暗闇で歩くのは危険と考え、明るいうちに移動するようにし、1泊目を熊の岩でテント泊、2日目はテント泊装備を担いでVII峰Cフェースのマルチからハツ峰上半縦走し、剣本峰まで行って剣沢に戻る計画を立てた。

なので軽量化は必須。テントやシュラフ、シュラフマットなどは最も軽い最低限の物にし、食料もアルファ米にフリーズドライ、でもピッケルや前爪アイゼン、ロープ50m×2本は準備した。

出発1週間前から毎日コロコロと予報が変わり、気をもんだ。仕上げのトレができなかつたらヤバイ。梅雨の天候は本当に直前になつても判断が難しい。最終予報も雨風雷の可能性があり、場所を変えるか決行するか出発当日ギリギリまで悩んだが、行けるところまで行ってみようとのリーダー判断となり、天候の回復を祈つて立山へ向かった。

## （1日目）

前日は仕事が遅くなり、立山駅前駐車場の到着が午前5時半近く。雨風が激しくなり、激しい眠さもあり、ここにきてまたまたどうしようか迷う。どの予報サイトを見ても雨絡みの強風予報で、なかなか決めれずうだうだしていたが、最終雨雲レーダーでは午前7時半までに雨が止み、それ以降降らない予測を信じ、決行しようと決めたのが6:40過ぎ。予約していた7:20のケーブルカーの出発まで30分ちょっと。車でゴロゴロして全く準備してなかったので、慌ててパッキングし、日焼け止めだけ塗って立山駅へ向かう。7:05立山駅に到着し事前に購入していたチケットを発券し、列に並ぶ。トイレに行けずコンビニで買った朝食も食べれなかったが、予報通り車から出る時にはほぼ雨が止んでいた。

三連休初日の立山駅はこの天候のせいか人は少なめ。

バスではほぼ寝ていたが、称名滝だけ起こされた。かなりの水量。

室堂でバスを降りると、外界の猛暑とうって変わって気温10°Cでガスガスで寒かった。予想外の寒さに室堂で毛糸の手袋購入、朝食の代わりに高っかいイマイチおやきと豚まんを購入しほうぱり、ダウンベストにレインジャケットを着こみフードを被って万全の防寒装備で出発した。途中地獄谷の風速計は平均風速10m以上。寒いはずだ。でも動いていると体は温まってきてちょうどよく気持ちよい。どんどん上着を脱いで体温調節した。

（ここまで入江記入、ここからリーダーにバトンタッチ）



雷鳥沢 2261mから別山乗越 2752mまでの標高差約500m。本チャンでは1時間に最低300m、できれば400mで登れる体力が必要ってことなので、それを目標に登った。腕時計には毎分当たりの獲得高度を表示できるので毎分8mを目安にノンストップで登り続け、1時間15分で登りきった。やったー！時間400m達成！（15kg背負って1度も立ち止まらず、40人はゴボウ抜き。ちょーしんどかった。登れたのは嬉しかったけど、ここですべてを使い果たし、その後ずっとしんどさを引ききずることに by 入江）

別山乗越は強風で寒くそそくさと剣沢に下る。ほぼ雪の上を歩くことなくあっという間に剣沢キャンプ場に到着した。ここで2日目夜以降の食料をデポ。富山県警の方に長次郎谷の様子をうかがうと、8月終わり頃の雪の状態で、雪がないと思って行って下さい、平蔵谷は終わっているとの話しを頂けた。



十分休息を取った後剣沢を夏道通しに下る。ヒヨングってる滝を超えると雪渓が続いていたが、どこまで雪が安定しているか分からず、雪解け直後の不安定な夏道を引き続き下っていると、遙か下の雪渓を別パーティが下ってきてているのが見え、あっという間に追い越していった。我々も通っていた夏道も急傾斜の雪面に塞がれたタイミングでアイゼンに切り替え雪渓下りへ転身した。さっすが雪渓下りは速い。あっという間に全く雪のない平蔵谷を通り過ぎ、そして前のパーティを追い越し長次郎谷出合いへたどり着いた。



ここからは長次郎谷の登りだ。出合いの雪渓は大きく口を開けている。ピッケルを出し、間隔を開けて登り始める。雪渓上は大量の岩が落ちており、落石にも警戒したが、通行中に落石はなかった。1峰2峰間ルンゼの出合いを超えしばらく進むと、遠くに滝が見えてくる。滝の手前で雪渓が途切れているようには見えていたが、右岸の岩に乗り移るタイミングを外し、雪渓のほぼ末端まで登ってしまった。



何処も雪渓と岩の間は隙間があき切れ落ちている。相棒さんは岩に乗り移り、ここから行けそうと言っているが、雪に磨かれた岩はツルツルで手がかりがない。どう見てもすべりそうで、滑ったら雪と岩の隙間から滝壺に一直線だ。帰ってくるように話して、いい場所を探しに雪渓を下る。岩へ乗り移りができその上も手がかりがありそうで、且つカムで確保支点と中間支点が取れるポイントを相棒さんが見つけ、ザイルを出す。逆相だが適度にクラックがありここなら安全そうだ。相棒さんがリードし、バチ効きカムを使って安全に登る。終了点は少し遠く声が通らないがコミュニケーションに問題無し、僕もセカンドで登りひと安心。

ここから暫くは沢登りっぽく岩場のぼり再び雪渓へ戻る。遠くに熊の岩が見えてきた。長次郎谷左俣の下部は滝が出ており登れなさそうだが、熊の岩からアクセスすれば長次郎のコルまで抜けそうで、エスケープに使えそうだ。熊の岩には右股からアクセスし、予定通り日没前に到着した。

独占かと思いきや、悪天予報に反し既にテントが5張り。なんとか平らな場所を見つけテントを張った。今回のテントは、いつものでなくストックを支柱に張り綱で固定する軽量トレイルシェルター。ペグが上手く入らず岩とスリングで固定した。水場はすぐ近くにあり、一番心配していた風も弱く、快適なテント場。お湯を沸かしてアルファ米とカレーの夕食を食べ、22時には就寝した。



## 〈2日目〉

翌朝4時半出発予定で目覚ましは3時。外は真っ白の霧の中。夕方の雷雨予報が気になりながらも起床し準備を始める。水を汲みに行き、湯を沸かし始めた頃ポツポツと雨音が、お湯が沸くころには盛大に降り始めた。この時点でCフェースやハツ峰上半はないなーと思いながらも、相棒さんはまだまだ行く気満々。アルファ米にお湯を注ぎ準備を進める。その頃、午前2時ごろからごそごそ準備している様子の、お隣の青モンベルテントのパーティーが、雨の中出発していった。大雨は15分程度で止んだが、相変わらずのホワイトアウト。電波が入らないため最新の予報がわからず、岩も乾きにくく視界も無いので、行きたがる相棒さんを説得しながら、出発をズルズルと遅らせる。

6時ごろ、早朝剣沢を出発し長次郎谷を登ってきたパーティーが、熊の岩でタイトロープの準備を始めた。熊の岩泊パーティーと情報意見交換が始まり、「今日は12時ごろから雨予報、早ければ10時頃から降るかも。」「午前3時過ぎにチンネに向かったパーティーがいる、強いですよね」「それを強いというのか?この天候、岩の濡れた状態で突っ込むとどうなるか、考えたらわかること、ただの無謀では。」と喋っている。

まあその通り。

(翌日、残念ながらチンネの付近で、ロープを結んだクライミング装備のお2人が亡くなられているのが発見されている)

雨の北方稜線やハツ峰は嫌なので、長次郎谷左股から剣岳を越える案で相棒さんも納得し、準備を始め、コンテの練習がてらルンゼを登り詰め、長次郎のコルに到着。途中開いたシュルンドや、ホワイトアウトで視界がなく右に寄りすぎたりなかなか面白かった。後続で登ってきたパーティーは軽アイゼンにピッケルなし。なんでも源次郎尾根に取り付く予定だったが、雨で濡れていたため登攀を中止したものの、装備不足から長次郎雪渓を下れず登ってきたとのこと。危ない危ない。



さあ北方稜線の始まりだ。コンテは練習と思っていたが、早朝の雨以降は降っていなかったが、ぬれてチユルチユル滑る岩と視界不良によりガチコンテに。厳しいルートにツッコミ岩角ビレイで確保して抜けたり。ここもいい感じのトレーニングに。ルートを正しく選べば、がれた登山道って感じ、ペンキやテープはなく煩くない良いとこだ。程無く本峰に到着し安全圏に。



そうそう、途中で激しく長い岩崩の轟音を聞き、源次郎転進パーティーが巻き込まれていないか冷や冷やし、大声で安全確認をしたが応答はなく、しばらくすると笑い声が聞こえてきてまあ大丈夫そうだなあと思っていた。そのパーティーが本峰で追いついてきたので話を聞くと、登る際に絶対剥れないと思い両手をかけた大岩が外れ、大崩落した、運良く打撲程度で済んだとのこと。やっぱり一般道ではないルートなことを再認識した。



昼からの雨対策と寒さ対策で本峰で上下ともカッパを着込み下山を開始。ここからは一般道だから軽快に下れると思ったが、それは大きな間違い。慣れない登山者がアッチコッチで停滞していっこうに進まない。やっぱり人のいないバリエーションルートはいいなー。13時30分前剣手前で雨が降り始め暑さを我慢して着続けていたカッパが役に立った。その後、雨も上がり暑さで茹でダコになりながらも、カッパのまま下山してきたが、暑さももう限界。一服剣でカッパを脱いだが、その途端激しい雨が降り出した。すぐ止むと思いそのまま進むも、止みそうになくカッパの上着は着たものの全然止まない。パンツはある程度撥水してたので何とかずぶ濡れにはならなかったが、だましだまし剣山荘に到着し雨宿り。小屋のご主人は嫌な顔ひとつせず受け入れてくださり、600円のどん兵衛をありがたく頂きながら、ひと休憩。



雨も上がり剣沢キャンプ場へ到着しテント設営を開始したが、再び強風と激しい雨に。慌てて設営したので、ギアやザックやらを雨の中に放置し水浸し。そしてテントも水浸し。その後も降ったり止んだりを繰り返し、雨が上がったのは20時頃。とりあえずおやつや残ったレーションを食べながら、バーナーで衣類乾かしたところで息絶え、夕食も食べずにご就寝。今日は雷鳥沢まで帰るって言ってたのは誰だっけなー。

〈3日目〉

翌朝はこの山行初めての快晴。朝はお手軽雑炊を美味しく頂き、てれてれと別山乗越、雷鳥沢へ。ここから僕の鬼門の炎天下行動に。日向に出る前の雷鳥沢近くの日陰で30分しっかりクールダウン。でも日向に出た途端あっという間にへろへろになりながら室堂へ帰還した。



残念ながらハツ峰には行けなかつたが色々と為になる山行になりました。次回はもう少し早い梅雨前に計画しようかなー。

2023年7月31日 千賀